



2026年3月16日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 福 田 組
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 荒 明 正 紀
(コード番号 1899 東証プライム市場)
問 合 せ 先 執 行 役 員 福 田 雄 介
経 営 企 画 部 長
(TEL 025-266-9111)

「FUKUDA VISION 2035」および「中期経営計画 2030」策定についてお知らせ

当社グループは、2026年12月期から2035年12月期までの10年間を対象とする長期ビジョン「FUKUDA VISION 2035」を策定いたしました。また、本長期ビジョンで掲げた「6つのありたい姿」を実現していくため、その前半となる2026年12月期から2030年12月期までの5年間を経営基盤の強化フェーズとする「中期経営計画 2030」を策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. はじめに

当社グループは、2025年12月期を最終年とする長期ビジョン 2025 および中期経営計画 2025 を終了し、2026年12月期から新たに長期ビジョン「FUKUDA VISION 2035」と、その第1フェーズとなる5カ年計画「中期経営計画 2030」を実行し、段階的な企業価値の向上を目指してまいります。新たな10年ビジョンとして掲げた「誇る、繋ぐ、挑む。そして、未来を創る。」のもと、持続的に成長し続ける企業であるため、まず「中期経営計画 2030」を「強化フェーズ」と位置付け、経営基盤を強化し、挑戦し続ける5年間といたします。具体的には、企業の礎となる人財の確保・成長を最優先に進めるとともに、マルチ・ステークホルダーの皆さまに更なる付加価値を提供するため、主要事業をより強化してまいります。また、その先の更なる成長を見据え、価値ある未来を提案し実現できる企業集団になるべく、挑戦を続ける5年間といたします。

2. FUKUDA VISION 2035 の概要

スローガン 『誇る、繋ぐ、挑む。そして、未来を創る。』

(1) 経営目標 【定量目標 (連結)】

1. 売上高 : 2,200億円達成
2. 営業利益率 : 6.5%達成
3. ROE : 8.5%

(2) 10年後の6つのありたい姿

- ・一人ひとりが生き生きと働き互いの成長を誇る
- ・社業の発展と未来の創造に向け挑戦し続ける意欲を絶やさない
- ・地域とともに成長し地域とともに未来を創る
- ・建設業の誇りを胸にまちづくりに貢献する
- ・当たり前前の安全・品質を提供し社会・人との信頼を繋ぐ
- ・グループ一丸で新たな価値を創造する

3. 中期経営計画 2030 の概要

スローガン 『人の成長とともに経営基盤を強化し 挑戦とともに価値ある未来を描く』

(1) 経営目標

【定量目標 (連結)】

売上高	: 1,900 億円達成
営業利益率	: 5.0%達成
基本配当	: 1株あたり 260円
配当性向	: 50%目標

(2) 重点戦略

目標達成に向け、以下の3つの重点戦略を推進します。

1. 『人財戦略』積極的な人材への投資で持続的成長を可能にする事業体制へ
2. 『事業戦略』信頼と品質を維持しつつ組織的に挑戦を重ね成長し続ける建設事業へ
3. 『ブランド戦略』全国で地域と共に歩み信頼される福田ブランドへ

詳細は別紙をご覧ください。

以上

ご注意：この文書は、当社の株式の売出しに関して一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず投資勧誘を目的として作成されたものではありません。当社普通株式について投資を行う際は、必ず当社が作成する株式売出目論見書及び訂正事項分（作成された場合）をご覧ください。また、この文書は、米国における当社普通株式についての投資の募集、購入の勧誘行為の一部をなすものではありません。当社は当社普通株式について、1933年米国証券法に基づいて証券の登録をしておらず、また、登録を行うことを予定していません。1933年米国証券法に基づいて証券の登録を行うか、又は登録義務からの適用除外規定に従う場合を除き、米国においては証券の募集又は販売を行うことはできません。なお、本件においては米国における証券の募集は行われません。

FUKUDA VISION 2035

2026年12月期～2035年12月期

「誇る、繋ぐ、挑む。そして、未来を創る。」

中期経営計画2030

2026年12月期～2030年12月期

「人の成長とともに経営基盤を強化し
挑戦とともに価値ある未来を描く」



株式会社 **福田組**

中期経営計画2030 目次

1. 前中期経営計画2025の振り返り

- 定性面の振り返り
- 定量面の振り返り

2. FUKUDA VISION 2035

- 我々の外部環境認識
- 我々のパーパス
- ビジョン全体像
- スローガンに込めた想い
- 10年後のありたい姿に込めた想い
- 主要数値目標

3. 中期経営計画2030

- 中期経営計画2030の位置づけ
- 主要数値目標～財務目標～
- 重点戦略全体像
- 人財戦略詳細
- 事業戦略詳細～土木・建築・不動産事業～
- ブランド戦略詳細
- FUKUDAマテリアリティ全体像
- FUKUDAマテリアリティ詳細～E・S・G～
- 財務・資本戦略～キャッシュアロケーション・株主還元方針～
- 資本コスト意識した経営の推進

FUKUDA VISION 2025

「100年の歴史の伝承と次の100年に向けた挑戦」

FUKUDA VISION 2035

「誇る、繋ぐ、挑む。そして、未来を創る。」

中期経営計画2025

Phase “構築”

持続的な成長を可能にする
充実した経営基盤を有する企業へ

中期経営計画2030

Phase “強化”

人的資本の充実とともに
主要事業の進化と深化を繰り返し、
挑戦し続ける強い企業へ

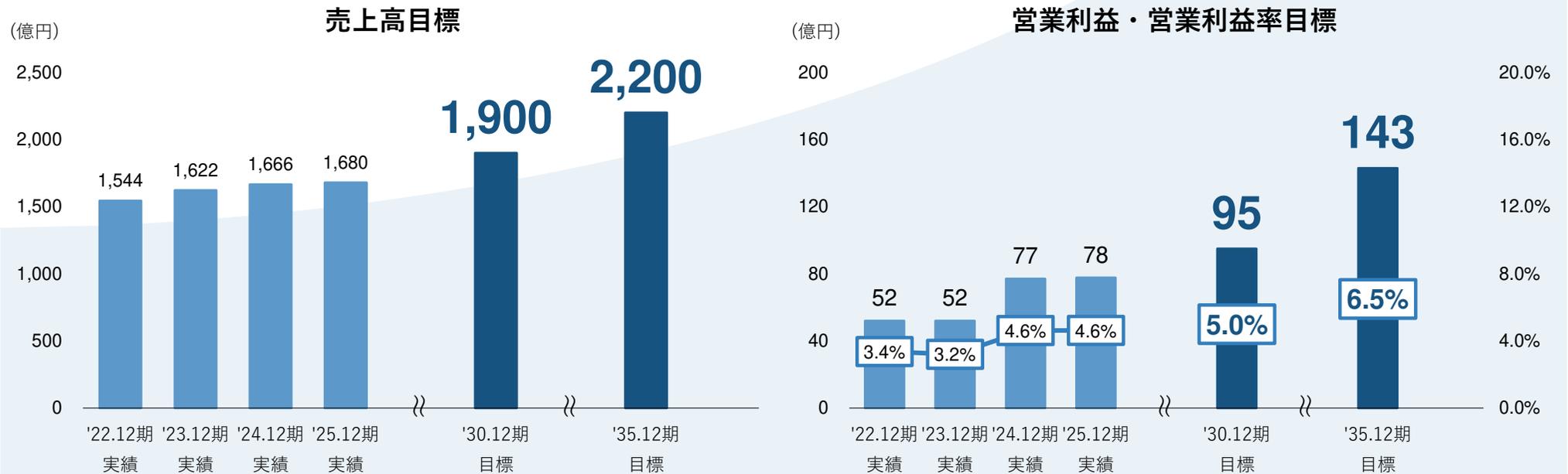
中期経営計画2035

Phase “展開”

強化した経営基盤とグループの総合力をもって、
福田ブランドを様々な分野で展開し、
より価値ある未来を提案できる企業へ

本中計スローガン

「人の成長とともに経営基盤を強化し挑戦とともに価値ある未来を描く」



中期経営計画2030 目次

1. 前中期経営計画2025の振り返り

- 定性面の振り返り
- 定量面の振り返り

2. FUKUDA VISION 2035

- 我々の外部環境認識
- 我々のパーパス
- ビジョン全体像
- スローガンに込めた想い
- 10年後のありたい姿に込めた想い
- 主要数値目標

3. 中期経営計画2030

- 中期経営計画2030の位置づけ
- 主要数値目標～財務目標～
- 重点戦略全体像
- 人財戦略詳細
- 事業戦略詳細～土木・建築・不動産事業～
- ブランド戦略詳細
- FUKUDAマテリアリティ全体像
- FUKUDAマテリアリティ詳細～E・S・G～
- 財務・資本戦略～キャッシュアロケーション・株主還元方針～
- 企業価値向上に向けた対応

主要事業における機会を確実に捉え社会的要請にも誠実に対応できている状況 更なる成長に向け一層の経営基盤強化が必要

中期経営計画2025の基本方針	評価	成果	継続課題
1 主要事業(建設・不動産) の進化と深化	○	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 特命案件受注機会の増加 ✓ 大型案件増加に伴う収益基盤の強化 ✓ 再生可能エネルギー事業への参入 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 更なる大型案件受注体制の強化 ✓ 再生可能エネルギー事業の拡大
2 福田グループによる 誠実ブランドの確立	△	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「100年先も誠実」というグループスピリットのグループ内浸透 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 誠実ブランドの発信強化による全国的な認知度の向上
3 安全と品質の強化と徹底	△	<ul style="list-style-type: none"> ✓ グループ各社による安全・品質向上への継続的な改善活動の推進 ✓ 複数の重大事故発生 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ グループ全体における安全・品質の更なる向上 ✓ 労災・品質不良ゼロの達成
4 人財の充実と成長	△	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人員規模の維持 ✓ 研修・OJTによる人財成長の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 更なる体制強化に向けた採用競争力の強化 ✓ 技術継承を含めた高齢化への対応
5 企業価値向上のための ESG経営	○	<ul style="list-style-type: none"> ✓ サステナビリティ基本方針の策定 ✓ ESG経営実現に向けた取組体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ カーボンニュートラル実現に向けた取組みの推進・加速 ✓ 地域貢献活動の継続と新規展開

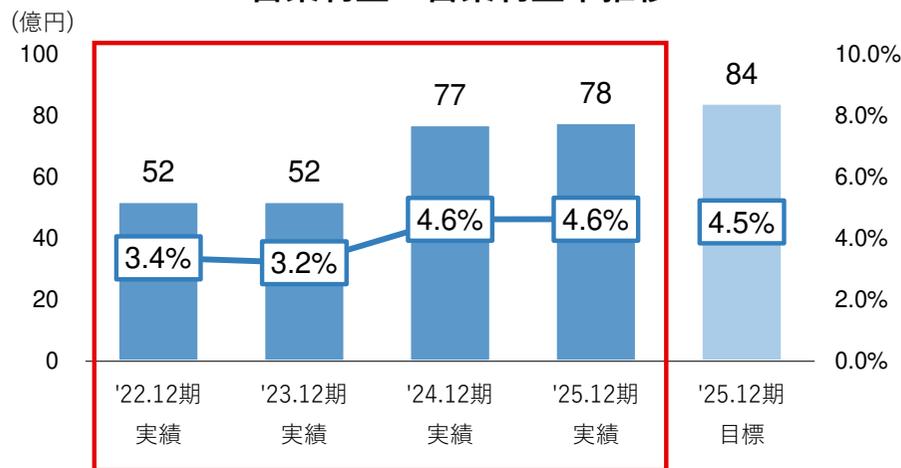


建築を中心に受注引合は旺盛な一方、人的制約もあり売上・利益目標はいずれも未達
資本効率改善に課題が残るも、増配をはじめとした積極的な株主還元によって改善を志向

売上高推移



営業利益・営業利益率推移



中期経営計画2025期間

主要数値目標に対する達成状況(2025年12月期)

- ✓ 働き方改革を含む人的投資を優先し、持続的な成長を志向。一方、人的制約下での受注量・採算確保が想定を下回り計画未達
- ✓ コロナ禍もあり意思決定に慎重を期した結果、投資金額は計画未達。企業価値向上のため、内部留保とのバランスを考慮しつつ安定的な配当を継続

指標	計画値	実績値	達成 (達成率)
売上高	1,850億円	1,680億円	未達(90.8%)
営業利益	84億円	78億円	未達(92.9%)
営業利益率	4.5%	4.6%	達成
ROE	8.0%程度	6.4%	未達
配当性向	20.0%以上	38.8%	達成
投資金額	累計75億円	65億円	未達(86.7%)

中期経営計画2030 目次

1. 前中期経営計画2025の振り返り

- 定性面の振り返り
- 定量面の振り返り

2. FUKUDA VISION 2035

- 我々の外部環境認識
- 我々のパーパス
- ビジョン全体像
- スローガンに込めた想い
- 10年後のありたい姿に込めた想い
- 主要数値目標

3. 中期経営計画2030

- 中期経営計画2030の位置づけ
- 主要数値目標～財務目標～
- 重点戦略全体像
- 人財戦略詳細
- 事業戦略詳細～土木・建築・不動産事業～
- ブランド戦略詳細
- FUKUDAマテリアリティ全体像
- FUKUDAマテリアリティ詳細～E・S・G～
- 財務・資本戦略～キャッシュアロケーション・株主還元方針～
- 資本コスト意識した経営の推進

急速に変化する外部環境をいち早く捉え、常に先を見据えた対応を取ることが必要

担い手不足の深刻化

- 人口減少・少子高齢化による担い手不足の深刻化
- 賃金水準の継続的な向上
- 若手・中堅層に対する技術継承の重要性増大

テクノロジー発展の加速

- DXの加速、AI技術の発展による品質高度化・施工効率化
- 新工法・新材料の利用拡大
- デジタル技術を活用した新事業創出数の拡大

地方創生・地域活性化の必要性増大

- 地域経済維持に向けた都市機能再編の進展
- 官民連携によるまちづくりの拡大
- インフラ老朽化に伴う維持管理・更新需要の増大

サステナビリティ対応の重要性増大

- カーボンニュートラルの促進
- 環境配慮型資材の利用拡大
- コーポレートガバナンスに関する規制の強化

社是

わが社は誠実と創造をもって事にあたり
建設を通じ社会に貢献します

経営理念

わが社は挑戦する企業体質のもと
人間と環境を大切にし
感動的価値の創造をめざします

グループスピリット

100年先も誠実

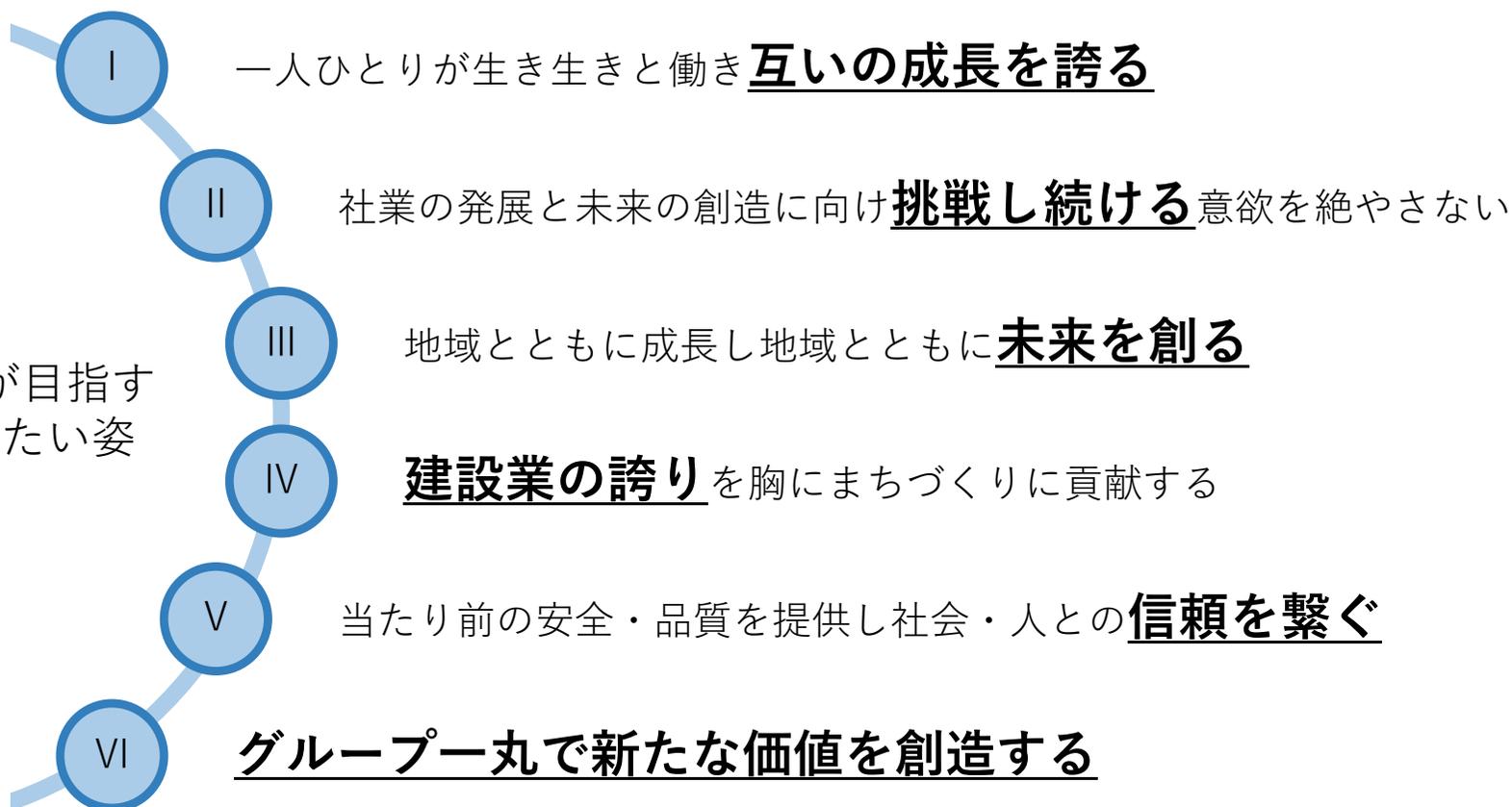
福田グループの誠実とは、かけがえのない人を愛するように、誠心誠意尽くすことである
誠実を貫き、大切な人たちとの強いきずなをつくりあげ、そのいのちと暮らしを守る
我々はグループの総力を結集し、この使命を果たし、100年先もつなげて行く



FUKUDA VISION 2035

誇る、繋ぐ、挑む。そして、未来を創る。

福田グループが目指す
10年後のありたい姿



〈スローガン〉

誇る、繋ぐ、挑む。 そして、未来を創る。

福田グループはこれまで誠実にものづくりに向き合い、
技術と実績を積み重ねてまいりました。

その過程で、お客様や地域社会の皆さまから信頼を賜り、
その結果として120年以上にわたる歴史を築くことができたと考えております。
これらの技術や実績、そして信頼は、私たちが誇るべき大切な財産です。

不確実性の高い時代だからこそ、
これまで培ってきた技術や実績、信頼をしっかりと次世代へと繋ぎ、
その上で自ら変革に挑み新たな価値を創造することが、
これからの10年で重要となると考えます。

私たち福田グループは「100年先も誠実」であるために、
誇りをもって、これからも価値ある未来を自ら創り、提供してまいります。

一人ひとりが生き生きと働き 互いの成長を誇る

「企業」の成長は「人」の成長がなければあり得ません。全役職員が生き生きと働き、互いの成長を実感し喜びあえる。そのような姿を目指し、私たちは人財への投資を積極的に行ってまいります。

社業の発展と未来の創造に向け 挑戦し続ける意欲を絶やさない

世の中の変化に対応しながら、感動的価値を創造し続けるためには、新たな取組み・事業への挑戦が不可欠です。私たちは一人ひとりが挑戦への意欲を持ち続けること、そして、前向きな挑戦を後押しする組織となることを目指します。

地域とともに成長し 地域とともに未来を創る

私たちは地域の皆様に支えられながら、ともに成長を続けてきました。そのことが、私たちの強みになっています。そして、私たちはこれからも地域の皆様とともに地域の未来を提案・創造できる企業を目指します。

建設業の誇りを胸に まちづくりに貢献する

私たちは120年以上ものあいだ、建設事業を通じ社会に貢献してきました。このことは私たちの誇りでもあります。これからも建設業の誇りを胸に、ものづくりの責任と使命感をもって、魅力溢れるまちづくりに貢献してまいります。

当たり前の安全・品質を提供し 社会・人との信頼を繋ぐ

私たちは「100年先も誠実」を根底に、安全で高品質なサービスの提供を心掛けてきました。そして、当たり前のことを当たり前に行い続けることで、確かな技術と信頼を築いてきました。その技術と信頼をしっかりと次世代にも伝承してまいります。

グループ丸で 新たな価値を創造する

福田グループが限られた経営資源の中で、更なる成長を続けていくためには、グループ内での企業連携を強化し、ブランド力を高めていく必要があります。これからも福田グループ全社一丸で新たな価値を創造し、企業価値の向上を目指します。

6つのありたい姿から抽出されるキーワード

人財

事業

ブランド



人財・事業・ブランドの3軸を戦略の柱に据え
ビジョンの実現、持続的な成長を目指す

指標	2025年12月期実績	2035年12月期計画
売上高	1,680億円	2,200億円
営業利益	78億円	143億円
営業利益率	4.6%	6.5%
ROE	6.4%	8.5%

中期経営計画2030 目次

1. 前中期経営計画2025の振り返り

- 定性面の振り返り
- 定量面の振り返り

2. FUKUDA VISION 2035

- 我々の外部環境認識
- 我々のパーパス
- ビジョン全体像
- スローガンに込めた想い
- 10年後のありたい姿に込めた想い
- 主要数値目標

3. 中期経営計画2030

- 中期経営計画2030の位置づけ
- 主要数値目標～財務目標～
- 重点戦略全体像
- 人財戦略詳細
- 事業戦略詳細～土木・建築・不動産事業～
- ブランド戦略詳細
- FUKUDAマテリアリティ全体像
- FUKUDAマテリアリティ詳細～E・S・G～
- 財務・資本戦略～キャッシュアロケーション・株主還元方針～
- 資本コスト意識した経営の推進



中期経営計画2030

人の成長とともに経営基盤を強化し 挑戦とともに価値ある未来を描く



FUKUDA VISION 2035達成に向け
着実な経営基盤の強化、事業の成長を成し遂げる

指標	2025年12月期実績	2030年12月期計画
売上高	1,680億円	1,900億円
営業利益	78億円	95億円
営業利益率	4.6%	5.0%
ROE	6.4%	6.7%以上

FUKUDA VISION 2035で掲げた 人財・事業・ブランドの3軸を重点戦略に据える

1. 人財戦略

積極的な人財への投資で
持続的成長を可能にする
事業体制へ

- ✓ 安定的な人財の確保
- ✓ 持続的な成長を牽引する
人財の育成
- ✓ エンゲージメントの向上

中期経営計画2030期間中

- ✓ 人財投資額 : 16億円
- ✓ 2030年12月期末
連結従業員数 : 2,340名
- ✓ 新規採用者数 : 551名

2. 事業戦略

信頼と品質を維持しつつ
組織的に挑戦を重ね
成長し続ける建設事業へ

- ✓ 社会的ニーズを踏まえた
成長領域への注力
- ✓ 事業成長に向けた体制の強化
- ✓ 生産性・収益性の改善

2030年12月期目標^{*1}

- ✓ 土木事業売上高 : 960億円
- ✓ 建築事業売上高 : 1,020億円
- ✓ 不動産事業売上高^{*2} : 26億円

3. ブランド戦略

全国で地域と共に歩み
信頼される福田ブランドへ

- ✓ 地域価値向上への貢献
- ✓ ブランド全国化に向けた
発信力の強化
- ✓ グループ内連携の推進

中期経営計画2030期間中

- ✓ 地域活性化PJ^{*3}件数 : 4件
- ✓ グループ連携PJ件数 : 4件

(注)1. 各事業の売上高目標値に関しては連結消去を考慮しない値を掲載
2. 不動産事業に関しては中期経営計画2030期間中の平均値を掲載

3. PJはプロジェクトを指す(以降注釈省略)

積極的な人財への投資で持続的成長を可能にする事業体制へ

数値目標(中期経営計画2030期間中)

目標達成に向けた取組み

人財投資額：16億円

2030年12月期末連結従業員数：2,340名(114名増*1)

新規採用者数：551名(うち新卒418名、中途133名)



牡丹山研修センターで開催された部門別研修の様子

1. 安定的な人財の確保

- ✓ 安定的な人財の確保に向けた全国各拠点における採用体制の強化
- ✓ 採用競争力の向上に向けたブランド戦略の推進
- ✓ 多様なバックグラウンドを持つ人財の確保に向けた採用チャネルの拡充

2. 持続的な成長を牽引する人財の育成

- ✓ 施工力の維持・拡充に向けた技術者育成カリキュラムの再構築
- ✓ 持続的な成長の実現に向けた次世代経営人財の育成強化
- ✓ 育成環境の更なる充実に向けた研修センターに対する積極的な設備投資の実行

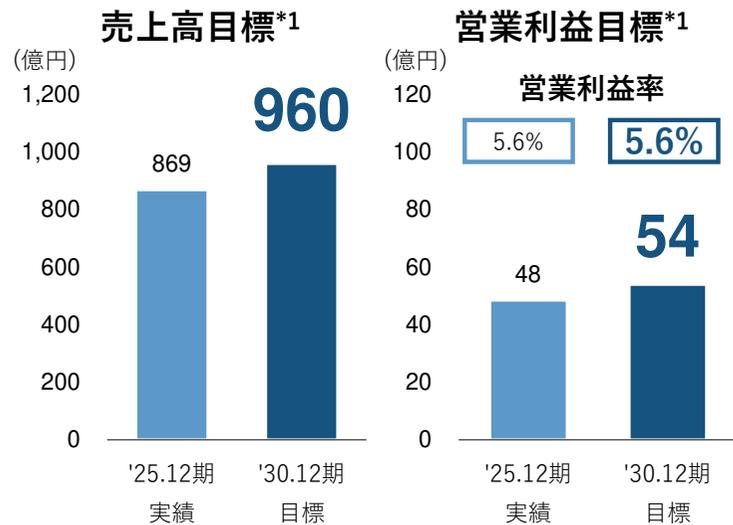
3. エンゲージメントの向上

- ✓ エンゲージメントの向上に向けた継続的な改善施策の立案・実行
- ✓ 働きやすい環境の実現に向けたワークライフバランス支援制度の整備
- ✓ 女性の活躍に向けたキャリア形成支援、福利厚生制度の充実
- ✓ 社員の意欲向上に向けた積極的な挑戦を促す組織風土の醸成

(注)1. 2025年12月期末連結従業員数2,226名に対する増加数を示す

得意技術を起点として成長領域を取り込み 安定的な受注を確保できる体制へ

目標達成に向けた取組み



1. 社会的ニーズを踏まえた成長領域への注力

- ✓ (官庁)安定した受注規模の確保に向けたインフラ維持更新・防災減災工事への注力
- ✓ (民間)造成等民間土木の受注拡大に向けた営業力の強化及び顧客基盤の拡大
- ✓ (共通)脱炭素社会への貢献に向けた再生可能エネルギー技術(地中熱)等の推進

2. 得意技術の深化による競争力の強化

- ✓ 事業競争力の強化に向けた得意技術の深化及びグループシナジーの発揮
- ✓ 官庁案件における優位性の確立に向けた技術提案力の強化
- ✓ 持続的な事業成長の実現に向けた技術系人財基盤の強化及び次世代への技術承継

3. 生産性・収益性の改善

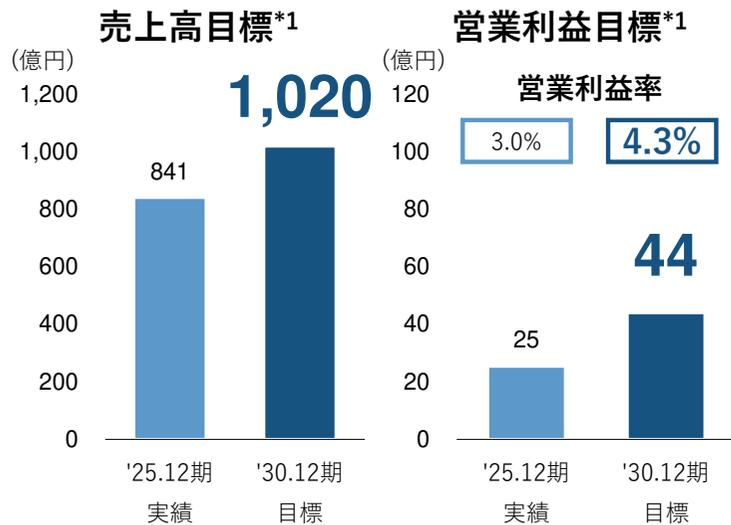
- ✓ 生産性の向上に向けた標準化や工法改善をはじめとする施工プロセス効率化の推進
- ✓ 人手不足に耐え得る施工体制の確立に向けたICT活用等、省人化の推進
- ✓ 収益性の向上に向けた適正工期の順守及び原価管理の高度化
- ✓ 生産性・収益性の向上に向けたグループ内連携による施工体制の構築



新潟県新潟市_福島潟水門本体(2025年竣工)

大型案件を起点として事業規模を拡大し DX推進等により更なる採算性の向上へ

目標達成に向けた取組み



1. 大型案件対応体制の強化

- ✓ 更なる事業規模の拡大に向けた大型案件営業体制の強化及び営業プロセスの見直し
- ✓ 受注キャパシティ最大化に向けた技術者配置体制の整備
- ✓ 更なる施工力の拡大に向けたパートナー企業との積極的な連携

2. 社会的ニーズを踏まえた成長領域への注力

- ✓ 大型案件の安定受注に向けた都市型再開発案件、都市型商業施設への挑戦
- ✓ 都市部におけるリニューアル工事の受注拡大に向けた営業力の強化
- ✓ 脱炭素社会への貢献に向けたZEB・ZEH案件及び設備更新・効率化事業の推進
- ✓ 中長期的な需要の取込みに向けたデータセンター案件等への対応

3. 生産性・収益性の改善

- ✓ 生産性の向上に向けた施工管理・積算DX化をはじめとする業務効率化の推進
- ✓ 受注時採算の向上に向けた積算の高度化
- ✓ 更なる収益性の改善に向けた調達体制の強化及びコスト作り込みの早期化

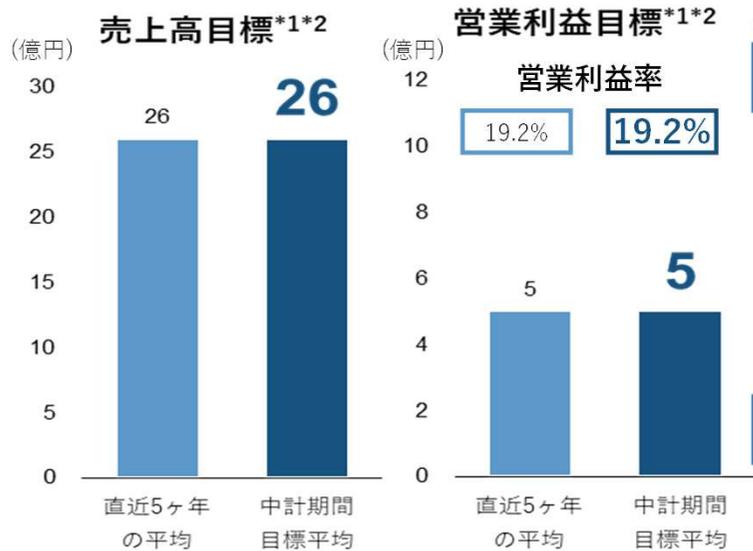


宮城県仙台市_イオンモール仙台上杉(2025年竣工)

(注)1. 各事業の売上高・営業利益に関しては実績・目標値ともに連結消去を考慮しない値を掲載

事業規模の安定化を図りつつ 建設事業(土木・建築)の成長に貢献できる事業へ

目標達成に向けた取組み



1. (フロー)大型開発PJの推進及び収益の平準化

- ✓ 事業規模の確保に向けた進行中開発PJの着実な遂行
- ✓ 中長期的な事業規模の拡大に向けた大型開発案件の早期事業化
- ✓ 事業規模の平準化に向けた短期開発事業の推進
- ✓ 更なる事業規模の拡大に向けた成長性を踏まえた事業エリアの拡大

2. (ストック)賃貸事業の強化

- ✓ 安定的な事業規模の確保に向けた賃貸物件ラインアップの計画的な拡充
- ✓ 不動産価値の最大化に向けたグループ内連携の推進

3. (共通)建設事業への寄与

- ✓ 土木事業の受注機会確保に向けた造成工事をはじめとする案件の創出
- ✓ 建築事業の受注機会確保に向けた出口戦略での営業・企画提案の強化
- ✓ 付加価値を高めた販売用不動産の創出に向けたリニューアル事業との連携強化
- ✓ 建設事業の成長に貢献できる営業体制の確立に向けた人員配置の最適化



福岡県古賀市大内田物流用地開発事業
(2025年造成工事完了)

(注)1. 各事業の売上高・営業利益に関しては実績・目標値ともに連結消去を考慮しない値を掲載
2. 中期経営計画2030期間中の平均値を掲載

全国で地域と共に歩み信頼される福田ブランドへ

数値目標

地域活性化PJ件数：4件
グループ連携PJ件数：4件



グループ合同による事業創造ワーキングの様子



万代太鼓 福鵬会による新潟まつり参加の様子

目標達成に向けた取組み

1. 地域価値向上への貢献

- ✓ 持続的な地域価値の創出に向けた地域企業・自治体連携PJの推進
- ✓ 地域の活性化に向けたスマートシティやコンパクトシティをはじめとする新たなまちづくりへの挑戦
- ✓ 地域と共に成長する関係性の構築に向けた地域活動への積極的な参画

2. 発信力の強化

- ✓ 営業力・採用力の向上に向けたブランドアイデンティティの再定義
- ✓ 新潟県外における認知度の向上に向けたSNS・メディアの積極的な活用
- ✓ 企業価値に対する理解・評価の形成に向けた株主コミュニケーションの深化

3. グループ内連携の推進

- ✓ 事業競争力の確保に向けた人財・技術両面での横断的な連携
- ✓ 事業競争力の強化に向けたグループ各社の強み掛合せによる共同PJの創出
- ✓ 新たな事業の開発に向けたグループ全体での遊休資産の活用
- ✓ グループ企業の事業領域拡大に向けたグループ内連携の推進

福田グループにおける8つのマテリアリティ(重要課題)を設定しました
各マテリアリティに対して、福田グループ全体で取組みを推進していきます

項目	No	マテリアリティ	主要数値目標	2030年目標
E Environment	1	脱炭素社会への貢献	Scope1+2のCO ₂ 排出量 (2023年度比削減率)	17,000 t (2023年度比▲30%)
	2	循環型社会の形成	再生可能エネルギー関連工事 受注件数*1	35件以上*2
S Social	3	多様で持続可能な 人財戦略の推進	・階層別研修開催回数 ・研修カバー率*3	・63回以上 ・140%以上
	4	健康で働きやすく働きがい のある職場づくり	時間外労働時間数*1	月平均20時間以下
	5	顧客、社会からの信頼獲得	技術開発、DXへの投資額*1	65億円以上 (2026年~2030年累計投資額)
	6	安心・安全なまちづくり への貢献	インフラの長寿命化に資する提案に 向けたグループPJの発足	毎年1件以上
G Governance	7	コーポレートガバナンスの強化	重大コンプライアンス違反件数*1	0件
	8	リスクマネジメントの強化	重大セキュリティ事故件数*1	0件

(注)1. 当社および売上50億円以上の一部連結子会社の合計数値(福田道路、興和、レックス、福田リニューアル、北日本建材リース)を掲載
2. 再生可能エネルギー関連工事への建材のリース件数も含む点に留意
3. 研修カバー率 = 延べ参加人数 ÷ 期末社員数として算出

Environment
E

1 脱炭素社会への貢献

2 循環型社会の形成

当社グループは、サステナビリティ基本方針に基づき、サステナビリティの考え方に沿った経営及びサステナビリティ課題の解決と持続的な成長を目指しています

脱炭素社会への貢献と循環型社会の形成を重要課題とし、「Scope1・2・3のCO₂排出量」を削減することを2030年度に向けた指標とするなど、環境に配慮した企業経営を進めて参ります

事業活動における取組み	指標(□：主要目標)	2025年12月期実績	2030年12月期目標
事業活動におけるCO ₂ 排出量の削減	Scope1+2のCO ₂ 排出量 (2023年度比削減率)	15,798 t (2023年度比▲35%)	17,000 t (2023年度比▲30%)
再生可能エネルギー事業の 周辺施工の促進	再生可能エネルギー 関連工事受注件数*1	13件*2	35件以上*2
ゼロエミッション建物の 建築工事を通じた環境対策	自社で設計施工を行う 建築案件のうち ZEB・ZEH件数*1	1件	6件以上
建設廃棄物のリサイクル推進	建設廃棄物リサイクル率 (リサイクル可能量ベース)	100%	100%を維持

(注)1. 当社および売上50億円以上の一部連結子会社の合計数値(福田道路、興和、レックス、福田リニューアル、北日本建材リース)を掲載
2. 再生可能エネルギー関連工事への建材のリース件数も含む点に留意

Social
S

3 多様で持続可能な人財戦略の推進

4 働きやすく働きがいのある職場づくり

5 顧客、社会からの信頼獲得

6 安心・安全なまちづくりへの貢献

当社グループは、長期ビジョンにおいて「一人ひとりが生き生きと働き互いの成長を誇る」を掲げ、多様な人財が安心して挑戦し、能力を発揮できる職場づくりを推進しています『人財育成方針』『社内環境整備方針』に基づき、働きがいと健康を両立する取り組みを進めます

持続可能な成長を支える人財の確保と育成、従業員のエンゲージメントの強化に注力し、従業員が安心して働ける職場の構築、そして労働災害の防止を推進して参ります

事業活動における取組み	指標(□：主要目標)	2025年12月期実績	2030年12月期目標
担い手確保に向けた教育プログラムの推進	・ 階層別研修開催回数 ・ 研修カバー率*2	・ 50回 ・ 111%	・ 63回以上 ・ 140%以上
男性育児休業取得率向上に向けた制度整備と意識改革	男性労働者の育児休業取得率*1(含む期またぎ取得予定者)	87.8%	100%
従業員エンゲージメントの向上	エンゲージメントスコア	eNPS：▲54.2%	eNPS：▲49.0%以上
ワークライフバランスの実現	時間外労働時間数*1	月平均23.6時間	月平均20時間以下
DX推進、技術開発によるイノベーションの促進	技術開発、DXへの投資額*1	－ (2026年より取組強化スタート)	65億円以上 (2026年～2030年累計投資額)
インフラの長寿命化に資する提案や技術開発、施工の実施	インフラの長寿命化に資する提案に向けたグループPJの発足*1	－ (2026年よりスタート)	毎年1件以上

(注)1. 当社および売上50億円以上の一部連結子会社の合計数値(福田道路、興和、レックス、福田リニューアル、北日本建材リース)を掲載
2. 研修カバー率=延べ参加人数÷期末社員数として算出

Governance
G

7 コーポレート・ガバナンスの強化

8 リスクマネジメントの強化

当社グループは、グループスピリット「100年先も誠実」を掲げ、誠実であることを前提としながら、常に社会のニーズに応え、持続的成長を目指し、社会貢献に務めてきました。この理念のもと、当社は透明性と公正性を重視し、健全な経営を実践してきました。

コーポレート・ガバナンスとリスクマネジメントを強化し、透明性・公正性を確保し続けることで、社会から信頼される健全で持続可能な企業経営を推進して参ります。

事業活動における取組み	指標(□：主要目標)	2025年12月期実績	2030年12月期目標
取締役会実効性の向上	取締役会の実効性評価と改善活動の実施	年1回	年1回以上を継続
グループガバナンスの向上	グループ内の対話と監査の実施	・グループ経営懇談会 年2回 ・監査等委員によるグループ内監査 年1回	継続と深化
コンプライアンスに対する社員意識の向上	重大コンプライアンス違反件数*1	0件	0件
人権尊重に向けたリスク把握と対応のデュー・デリジェンス実施	人権デュー・デリジェンスの継続実施	- (2026年よりスタート)	年1回以上を継続
情報・ITリテラシーに対する社員意識の向上	重大セキュリティ事故件数*1	0件	0件

(注)1. 当社および売上50億円以上の一部連結子会社の合計数値(福田道路、興和、レックス、福田リニューアル、北日本建材リース)を掲載

5年間で約590億円を本業及び資本効率化により創出し
戦略的な成長投資と株主還元に分けます

キャッシュイン

本業による安定的なキャッシュ創出かつ、
資本効率化を進める

本業による キャッシュ 創出 約440億円	<p>営業CF 約440億円</p> <p><small>※想定営業利益+減価償却費-税金 +キャッシュアウトに含まれる費用 70億円(人・ブランド・DX・技術)を加算</small></p>
資本効率化 による キャッシュ 創出 約150億円	<p>運転資本効率化による創出 約100億円</p> <p>成長投資の実行時期に 合わせた有利子負債調達 約50億円 + α</p>

キャッシュアウト

成長投資と株主還元を両立する規律ある
資本配分を行う

成長投資 約430億円	<p>【人財・ブランド投資：約35億円】 採用・育成費、広告宣伝費 他</p>
	<p>【DX・技術投資：約65億円】 DX・システム投資、技術開発費 他</p>
	<p>【設備投資：約130億円】 船舶、事業用設備更新 他</p>
	<p>【戦略投資：約200億円 + α】 M&A、開発案件投資 他</p>
株主還元 約160億円	<p><株主還元方針・目標> 配当性向：50%目標 基本配当：260円 自己株式の取得：50億円程度</p>

配当性向50%を目標に、安定的かつ積極的な株主還元を推進します
 また、IR活動を一層強化し、投資家の皆様との建設的なコミュニケーションを図っていきます

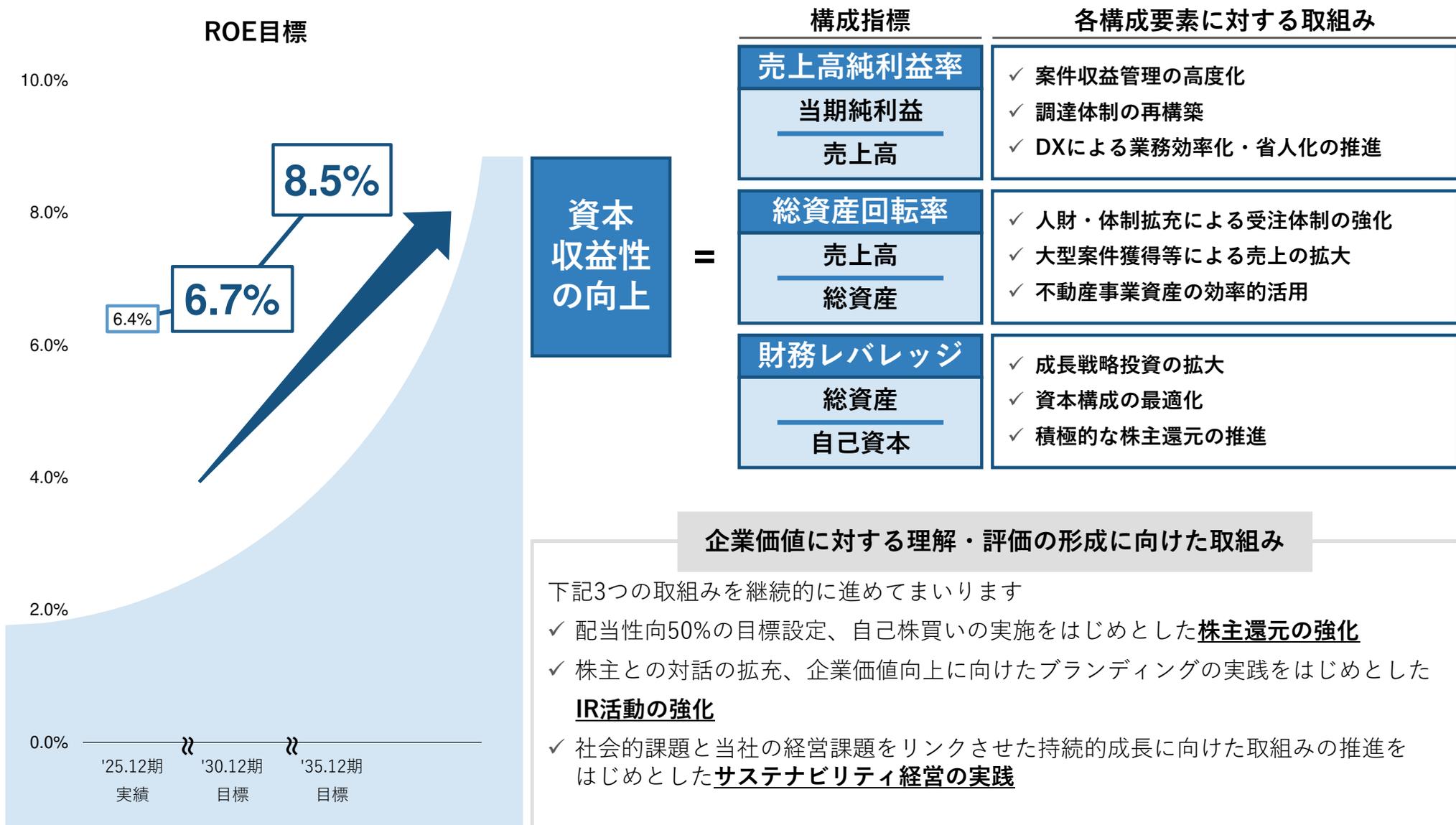
利益配分に関する基本方針

- ✓ 利益成長により、1株あたり配当金の継続的な増加を目指し、基本配当を260円に引き上げ、**配当性向50%を目標とする**
- ✓ 資本コストを意識した経営と積極的な株主還元を志向し
5年間で50億円程度の自己株取得を計画



(注)1. 実績値に関しては前中期経営計画2025の総額、目標値に関しては中期経営計画2030の総額を掲載

企業価値の向上に向け資本収益性と成長期待を意識しながら
2035年12月期におけるROE8.5%の達成に向け多面的な取組みを推進していきます



シンボルマーク

1992年に制定されたシンボルマークは、福田組の「F」をシンボリックに視覚化したものです。企業理念を反映しているこのマークは、お客さま、そして社会に対する私たちからのメッセージを表しています。



FUKUDA GREEN 自然環境への配慮

FUKUDA BLUE より良い社会環境の創造

FUKUDA RED 人間と感動の象徴

さらに、形状の変化によって、次のような意識を表現しています。

- 横への広がり「あらたな事業活動への挑戦」
- 上方へ「飛躍」
- 真円から楕円へ「たゆまぬ自己改革」

注意事項

本資料に掲載されている計画・目標など将来に関する事項は、本資料発行時において入手可能な情報に基づき、当社および当社グループが作成したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

従って、実際の業績等は記載されている目標等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。



株式会社 **福田組**